

# 5月・6月の管理ポイント

平成28年5月2日



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第141号

5月になると4月に比べ気温も上がり、乾燥しやすい時期になってきます。そのような状況ではグリーンの乾燥が一気に進みドライスポットの発生する恐れがありますので、水管理には十分な注意が必要です。逆に6月は雨の日が多くなるため、土壌中の排水が重要になってきます。



## レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

5月は芝生の根をしっかりと伸ばす大切な時期です!!

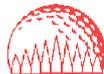
レボで表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。

土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なうより回数を減らして一度に十分な散水を行なった方が根域に軽いストレスがかかり根域が深くなります。

6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回



## 光合成細菌、サッチ・リムーバー

グリーンの通気性改善に...

梅雨前の更新作業時に**光合成細菌**と**酵素剤サッチ・リムーバー**を組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

光合成細菌 使用量：1~2cc 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>散布 月1~2回

サッチ・リムーバー 使用量：1~2g/m<sup>2</sup> 散布水量：0.5ℓ/m<sup>2</sup>散布 使用回数：月1~2回



## サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチに対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、製剤1g当たり約400億個の菌が配合されておりますので、土壌中でも安定した効果が期待できます。

殺菌剤を多用するグリーンには**酵素剤サッチ・リムーバー**、ラフ・FWには低価格の**サッチ・マネージャー**の使用がおすすめです。

使用量：ラフ・FW 0.1~0.2g/m<sup>2</sup> グリーン 0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量：0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>



## タフスティングーFL

害虫発生にあわせて...

ゴールデンウィーク以降のグリーンには、タマナヤガ幼虫、シバツトガ幼虫の連続発生が予想されます。また、この時期はコガネムシ幼虫も蛹化前で、活発に動いている時ですから、ネオニコ(イミダクロプリド)+ジアミド(フルベンジアミド)系の新規長期残効型殺虫剤**タフスティングーフロアブル**を使用しましょう。両成分とも耐雨性に優れ残効性が長いので、安心してご使用していただけます。

使用量：タフスティングーFL 0.1ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml/m<sup>2</sup>散布



## グリーンメカ、マリソパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のエサとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。また過湿土壌からくる酸素不足により、根の活性も落ちてきます。黒糖、各種ミネラルの豊富な**グリーンメカ**で不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

**光合成細菌**と**マリソパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いドブ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>以上 マリソパワー 2~4ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>以上

# 界面活性剤の定期処理による浸透効果について

前回は撥水性土壤に界面活性剤添加による浸透効果について説明しましたが今回はあらかじめ界面活性剤を処理し、土壤中に処理層ができた時の水の浸み込み方について説明します。

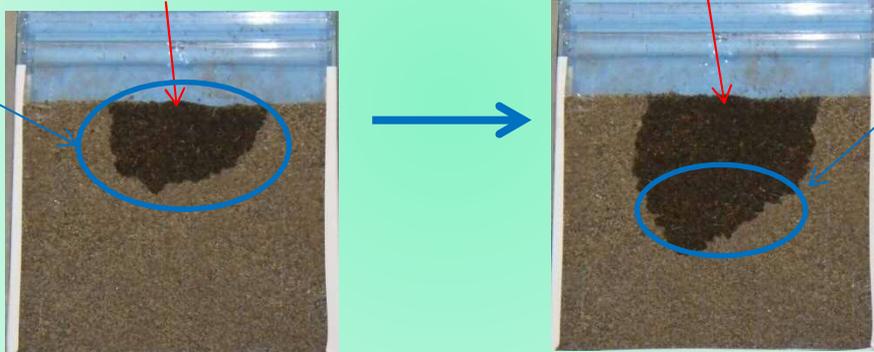
## 撥水性の土壤に 界面活性剤を1回処理した場合

界面活性剤の希釈液が浸み込んだ部分

①撥水性土壤に界面活性剤の希釈液を5ml注水した。

②更に水5mlを追加で注水した。

水が希釈液に混ざって浸み込んでいった部分



水に界面活性剤を処理すると浸透力が高まり水のみでは染み込まなかった撥水性土壤にも染み込むようになります。5mlの水を追加して10ml注水しても定期処理した土壤（下記）よりは広がりません。

## 撥水性の土壤に 界面活性剤を定期処理した場合

水だけでも無処理の砂に希釈液を注水した時よりも広がっている

撥水性土壤に界面活性剤を処理し、土壤粒子全体に吸着させた後、乾燥した土壤に水だけを5ml注水



界面活性剤の定期散布を行って土壤処理層が出来ていれば、土壤が乾燥しても、水のみでも浸み込んでいきます。また、水の染み込む範囲も無処理の撥水性土壤（上記）の半分の水でも広く浸み込んでいきます。

上下の写真を比較するとあらかじめ処理層を作った方がより水が染み込みやすくなっていることが確認できますそのため、界面活性剤はドライに対して発生してから治療として使うよりも先に処理層を作り、予防として使った方が高い効果が期待できます。